



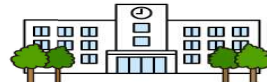
学校教育目標

校訓

刮目 ～刮目の生徒・刮目の教師～

～かけがえのない自己の人生に目を開き、たくましく自己実現していく生徒の育成～

自主・剛健・高雅



東金市立東金中学校 学校だより第8号

令和3年6月8日発行 文責：副校長 久我 和廣

部活動

1 なぜ、部活動が大切か？

今日、社会全体が激しく変化する中で、子供たちがたくましく生きていくためには、「生きる力」を身につけていくことが大切です。「生きる力」とは、「確かな学力」・徳（豊かな心・人間性）・体（健康な体）」のバランスが取れた力です。子供たちの学習と部活動のバランスが取れた生活は目標のある意欲的な生活をつくりあげ、生きる力の大きな土台づくりにつながります。学習は確かな学力を、部活動では健やかな身体と礼儀や豊かな心を育みます。

2 部活動で成長する

部活動は、自己選択により個性を伸ばす活動であり、共通の興味や関心を持つ生徒が、学年や学級の所属を離れて行う活動です。

この部活動を通して、子供たちは専門的な知識や技術・たくましく健やかな身体を身につけます。また先輩・後輩の関係も含めて仲間を尊重する態度や感謝する心が育まれ、時間を守り、礼儀正しく行動するなどの基本的な生活習慣を身につけます。さらには努力することの大切さや向上心を身につけることができます。

そのような中で子供たちは、同じ志を持つ仲間と共に、充実感と自信を持ち、様々な壁を乗り越え、より積極的に学習や生活に取り組めるように成長していきます。

3 部活動と学習を両立させるためには？

部活動は、子供たちの中学校生活において、重要な位置づけとなります。子供たちが、上手に時間を使い学習に取り組めるように環境を整え、部活動との両立が図れるように温かく声をかけ支えてあげてください。しかし、部活動と学習の両立について心配な時には、部活動顧問や学級担任と連携を取ることが大切です。

4 家庭教育から見た部活動とは？

家庭では、食事や睡眠といった健康面のサポートを行っていくことが重要と考えられます。また、子供が努力している姿を、折に触れ応援したり、共感することを通して親子のコミュニケーションを深めていくことができ、思春期を迎えた子供たちの成長にプラスに働きかけます。

千葉県教育委員会家庭教育支援資料より

以上のようなことから中学校生活における部活動は、本来の意味での生きる力を身につけていくことができます。さらに、子供たちにより良い経験と成長をもたらす環境を与えるためにも、家庭と学校が連携しましょう。

御家庭の御理解と御協力そして御支援をお願いします。

お知らせ

令和3年度教科書展示会について
日時 令和3年6月11日(金)～27日(日)

9:00～17:00

会場 東金教科書センター(東金市立図書館内)
※保護者の方々も閲覧できます。

弱いチームとは？

先週から今週にかけて、各部活動ごとに総合体育大会等の抽選会が行われています。対戦相手や会場については、次回の学校だよりでお知らせいたします。大会を前に「弱いチームとは7ヶ条」を紹介いたします。

1 きちんとできない。

- ①用具やカバンをばらばらに置く。
- ②部室(更衣室)の整理ができない。
- ③人の話を素直に理解しようとしめない。
- ④あいまいにごまかそうとする。
- ⑤時間を守れない。

2 我慢できない。

- ①楽な方へすぐ流れる。
- ②自分を追い込めない。
- ③自分の感情をコントロールできない。



3 あいさつができない。

- ①言われなければやらない。
- ②気持ちがこもっていない。
- ③相手の目を見て、話す・聞くことができない。

4 すぐ歩く。

- ①移動がだらだらする。
- ②集合が遅い。
- ③集合してもふらふらしている。

5 言いわけが多い。

- ①他人のせいにする。
- ②「でも」「だって」「～だから」が多い。
- ③他人への注意は他人事になる。
- ④怒られたり、言われたりしないとやらない。

6 コミュニケーションがとれない。

- ①メールや電話で陰口を言う。
- ②話ができない。
- ③先生の言うことを素直に行動に移せない。
- ④チーム内で小集団をつくり、いざこざの元を作る人がいる。

7 きちんとした考え方ができない。

- ①ポジティブ(前向き)な考え方ができない。
- ②今、何をなすべきか意識して考えられない。
- ③わかってないのに「はい」と言う。
- ④都合のいいように勝手に判断する。

保護者の皆様は、お子様の所属する部活動を見て、当てはまると感じた部分はありますか？部活動は、技術面と精神面のバランスがとれてこそ、結果が結びつくと思います。指導者の私たちも、日常生活面を大切にしながら部活動の指導にあたっています。生徒たちにも、自分そして集団を向上させるためにできることからしっかりと改善していった欲しいと思っています。

